



家庭(保護者)・保育士・栄養士と連携し、 信頼関係をつくる。



●子ども ◆保育者

たんぽぽ組(0歳児) 6か月～1歳6か月

- 手づかみ食べを中心とした食事を大切に、スプーンを持って口に運べるようになる
- 空腹になってから、ミルクを飲んだり、離乳食を食べたりするというリズムが出来る
- ◆「おいしいね」などの言葉かけを大切に、食事を楽しむ
- ◆栄養士と連携し、子どもの成長に合わせた食事を目指す
- ◆手づかみしやすいメニューを取り入れる
- ◆離乳開始時には、保護者・担当保育士・栄養士で話し合いを重ねて進めていく

たんぽぽ組(1歳児) 1歳6か月～2歳未満

- スプーンを持って食べる
- スープ・お茶等は、器を両手で持って飲む
- 幼児食で、多くの食感や味覚を味わう
- ◆子どもとの信頼関係をつくり、安心して食事が出来る環境作りをする
- ◆自分で食べようとする意欲をサポートする
- ◆こぼしても見守り「上手に食べれたね」、苦手な物「〇〇食べれたね」といった子どもの気持ちに寄り添った声かけをする

すみれ組(2歳～)

- 散歩の中で自然に触れ、田畑の野菜や果物に興味を持つ
- スプーンやフォークを持って自分で食べる意欲を持つ
- 食事のマナーや挨拶(いただきます・ごちそうさま)を知る
- 一緒に食べる楽しさを味わう
- ◆「美味しいね」「良いにおいがするね」「何が入っているかな」等(五感を使う)声掛けを大事にする

3歳以上児

コロナウイルス感染対策

- 食事前の丁寧な手洗い、消毒を徹底する
- 食事の席は、間隔をとる
- おしゃべりをせず、食事をする

ばら組(年少)

- スプーン・フォークを使ってこぼさず食べる
⇒箸の練習をする
(食事中には注意しない。遊びの中で始める)
- 給食を楽しみにする
(メニューを気にしたり、話題にする)
- 共食の楽しさを味わう。
- 食事のマナーを身につける。

ゆり組(年中)

- いろいろな味が分かり、食材に興味を持つ
- 箸で上手に食べられるようになる
- マナーを守って食事する。
- 野菜栽培を通して、「育てる」・「食べる」・「喜び」を味わう

きく組(年長)

- 食事のマナーを身につける
- 感謝の気持ちを持つ
- 身体と食べ物を知り、関係を知る
- 箸を使って食べる事に慣れる
- メニュー表に関心を持つ

お腹がすぐリズムの
もてる子ども

一緒に食べたい人が
いる子ども

食べものを
話題にする子ども

食育で目指す子どもの像

食べたいもの、
好きなものが増える子ども

食事づくり、
準備にかかわる子ども

食育の5項目

1. 食と健康
2. 食と人間関係
3. 食と文化
4. いのちの育ちと食
5. 料理と食